

目次	ページ
三条中学校 防災教育 2 年間構想	171
防災教育年間計画（令和 4 年度）	172
具体的な指導事例（学習指導案）	173
1 学年 総学 防災意識の大切さを知り、災害に関する知識を深めよう	173
外部専門家の活用について	181
教職員研修 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	181
生徒対象講演会 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	181
地域と連携した防災訓練について	182
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	190

防災教育年間計画（令和4年度）

		1 学期	2 学期	3 学期
国 語		○流れを踏まえて話し合おう。 ○印象に残る説明をしよう。 ○論理の展開を工夫した意見文を書こう。	○調べたことを報告しよう。 ○話し合いで考えを深めよう。 ○話し合いで課題を解決しよう。	○学習成果を発表しよう。 ○「3年間のあゆみ」の作成
社 会		○世界の人々の生活と環境（1年） ○ヨーロッパの古代文化（1年） ○世界から見た日本の資源（2年） ○江戸時代の災害（2年） ○現代の民主主義（3年）	○世界から見た日本の自然環境（1年） ○日本の諸地域（2年） ○第1次世界大戦と日本（2年） ○私たちの政治参加（3年）	○平安時代の災害（1年） ○日本の諸地域（2年） ○新たな時代の日本と世界（2年） ○よりよい社会を目指して（3年）
数 学		○方程式（1年） ○連立方程式（2年） ○平方根（3年）	○比例・反比例（1年） ○1次関数（2年） ○相似な図形（3年）	○資料の活用（1年） ○確率（2年） ○三平方の定理（3年）
理 科		○身近な生物の観察（1年） ○化学変化と原子・分子（2年） ○エネルギーと仕事（3年）	○自然観察フィールドワーク（1年） ○電気の世界（2年） ○いろいろなエネルギー（3年）	○大地の変化（1年） ○気象とその変化（2年） ○地球とわたしたちの未来のために（3年）
保健体育		○ストレスの対処と心の健康（1年） ○健康な生活と病気の予防（3年）	○安全な飲料水の供給（1年） ○災害による傷害の防止（2年） ○応急手当の基本（2年） ○感染症の予防（3年）	○変化する環境問題（1年） ○保健・医療機関や医薬品の利用（3年）
技術家庭		○（家）私たちの生活と地域 ○（技）材料と加工の技術（1年） ○（技）生物育成の技術（1年） ○（家）衣生活・住生活と自立（3年）	○（家）食生活と自立（1年） ○（家）家族の安全（2年） ○情報技術（3年）	○（技）エネルギーの変換（1年） ○（家）環境に配慮した生活（3年）
道 徳		3（1）生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 4（5）勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。		
特別活動	学級活動	○適応と成長指導 ○健康安全	○災害発生の状況に応じた避難	○危険の予測
	生徒会活動	○縦割り活動	○文化祭	○地域行事への参加 ○ボランティア活動
	学校行事等	○避難訓練（避難経路確認、起震車体験） ○集団下校 ○ふれあい学習	○避難訓練（引き渡し訓練、避難所開設訓練、防災訓練）	○避難訓練（東日本大震災を学ぶ）
総合的な学習の時間	○地域で起きた災害について調べて資料を作成し、地域に向けて発表する。 ○避難所開設、運営の学習・活動を通して地域のことを学び、奉仕の心や地域を愛する心を育てる。			
防災ノート の活用	（本 冊） 1. 災害の種類 2. 学校で大地震が起きたら 3. 外出中に大地震が起こったら 4. 避難所で生活することになったら 5. 明日のために私たちができることは 6. 災害や防災の情報を知っておこう （ワークシート） ①自分や家族の過ごす部屋を安全にする ②備蓄品の種類と量、場所を確認する ③通学路上、地域の避難マップ、防災マップを作成する ④家族の避難先を知って、連絡を取る ⑤避難所設営・運営について考える			

具体的な指導事例（学習指導案）

1 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時：令和4年7月7日（木）5校時

場 所：本校体育館、プール

対 象：1年1組33名（男子14名 女子19名）

指導者：教諭 夏坂 勝

1 単元名

「防災意識の大切さを知り、災害に関する知識を深めよう」～自然災害（河川水害）について体験する～

2 単元について

（1）単元観

新学習指導要領においては、育成すべき資質・能力について、三つの柱で整理している。この三つの柱とは、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養である。各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図っている。そして各学校においては、地域社会や児童生徒の実態等に即して学校としての目標をより明確にし、各教科等で育成する資質・能力を関連付け、教科等横断的に学校一丸となって教育を展開するカリキュラム・マネジメントを強調している。そればかりでなく、地域社会の教育力を結集すべく「地域に開かれた教育課程」を目指している。

特に防災教育に関する事項としては、中学校学習指導要領の第1章「総則」の第2の2（2）には、「各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。」（小学校、高等学校も同様の記載）と示している。そればかりでなく、小学校と中学校の学習指導要領解説総則編には、教科等横断的な教育内容についての参考資料が掲載され、その中に「防災を含む安全に関する教育」が示されている。

これは、防災等に関する教育において育成を目指す資質・能力に関連する各教科等の内容のうち、主要なものを抜粋し、各学校において、それぞれの教育目標や生徒の実態等を踏まえた上で、カリキュラム・マネジメントの参考として活用できるように示されたものである。

学校と地域社会が教育目標を共有し、災害から身を守り、災害を乗り越えていくなどの「生きる力」をいかに育てていくか。そうした教育が今、求められていると考える。そして、防災への知識を深め、意識を向上させながら、地域社会への関心を強め、最終的には地域社会、郷土を愛し、社会参画の意識を高めることを目指したい。

（2）生徒観

対象学級である1年1組は西園小学区と三条小学区から通学する男子14名、女子19名の計33名で構成されている。西園小学区は幹線道路に沿った住宅地であり、自然災害の発生しにくい地域である。三条小学区は昔は田園が広がり、農業が中心の地域であったが、八戸駅の新幹線開業以来、新興住宅地が拡大しており、他地域から移り住む住民が増えてきている。平成11年に、浅水川の氾濫が発生し大規模水害が発生したが、そのことを知っている住民は少ない。よって、両小学校区から通ってきている生徒たちは、学区の災害について詳しいことを知らないことが多い。また、東日本大震災が発生したときに生徒たちは1歳～2歳であったため、自然災害の猛威を想像することは難しい。

生徒の防災に関する実態把握のために調査を行った。質問項目は【表1】のように防災教育のねらいと関連付けて作成し、4段階の選択式とした。結果は【図1】の通りである。学級全体の肯定的な回答の割合をねらいとの関連ごとに見ると、「知識・思考・判断」が29%、「危険予測、主体的な行動」が48%、「社会貢献、支援者の基盤」が69%であった。「あてはまる」の割合だけを見ると、「知識、思考、判断」が13%、「危険予測、主体的な行動」が21%、「社会貢献、支援者の基盤」が48%であった。この結果から災害に関する知識は不十分であり、また、災害時に正しい判断、自ら進んで行動ができない可能性がある。以上のことから生徒の指導について、次のことが考えられる。

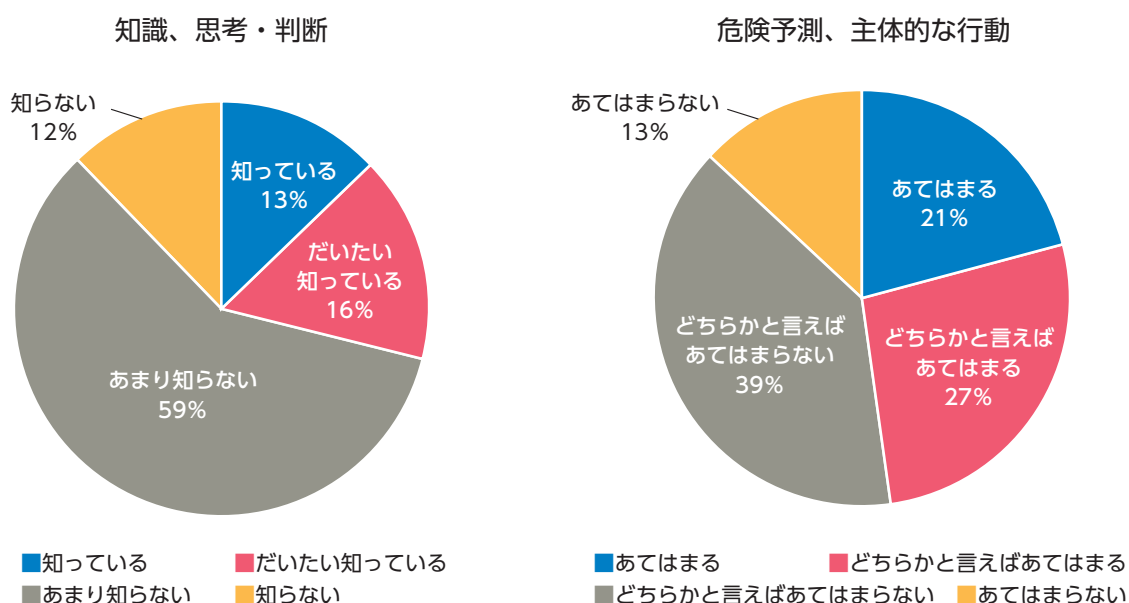
- 「知識、思考・判断」の基礎的知識の定着が必要である。
- 「危険予測、主体的な行動」を重点とした指導が必要である。
- 指導者が、各発達段階の目指す姿に応じた学習内容を取り扱ったり、指導の方法を工夫したりする必要がある。

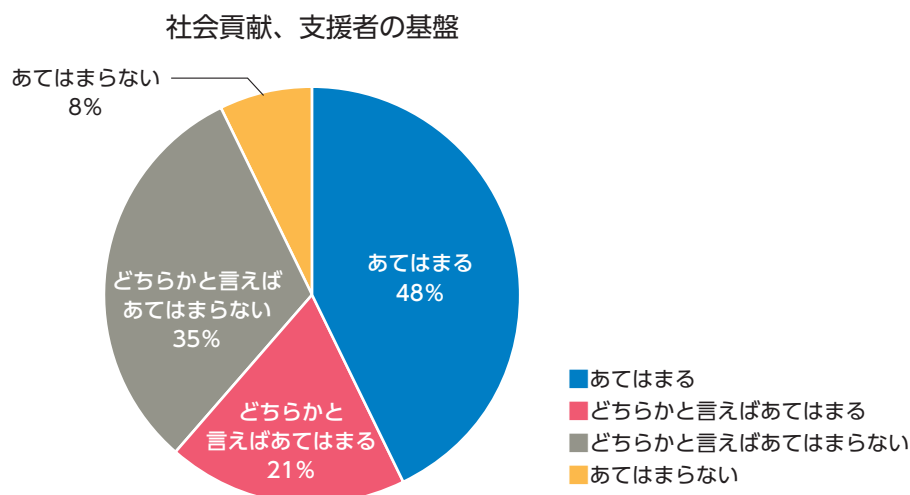
【表1】生徒の実態調査 質問項目

質問項目	ねらいとの関連
1 私は、台風や地震がどのようにして起こるか知っている。	知識
2 私は、台風や地震でどのような災害が起こるか知っている。	知識
3 私は、津波避難所マークの意味を知っている。	知識
4 私は、学校の避難訓練に真剣に取り組んでいる。	行動
5 私は、住んでいる地域でどのような災害が起こりやすいか予想できる。	行動
6 私は、災害が起きた時に、安全な場所がどこか知っている。	行動
7 私は、災害が起きたときに、どこに逃げて、家族とどのように連絡をとるか、分かっている。	行動
8 私の家には、災害用の非常食や水等を準備している。	行動
9 私は、災害が起きたら、自分の命を守るために、まずは逃げると思う。	行動
10 私は、災害が起きたら、近くの人に声をかけながら避難すると思う。	貢献
11 私は、避難した後、わがまを言わず、決められたルールを守ると思う。	貢献
12 私が住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加すると思う。	貢献

※知識・・・「知識、思考・判断」、行動・・・「危険予測、主体的な行動」、貢献・・・「社会貢献、支援者の基盤」

【図1】





(3) 指導観

防災教育は、様々な危険から児童生徒の安全を確保するために行われる安全教育の一部をなすものである。防災教育のねらいは、『『生きる力』を育む防災教育の展開』（文科省、2013）にしたがって、以下のようにまとめられる。

- ①自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。（知識、思考・判断）
- ②地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。（危険予測、主体的な行動）
- ③自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。（社会貢献、支援者の基盤）

昨今、「防災教育を通じた生きる力の育成」が唱えられており、学習指導要領でも重視されている。「災害から身を守る」ということは、人が生きていくうえで重要なテーマである。災害が起こったときに、「今、どういう状況にあるのか？」限られた情報をもとに判断し、行動しなければならない。危険な状況に陥ったとき、とっさに身を守る行動がとれるようになっていることが重要である。

それだけでなく、災害は様々な形で発生し、限られた情報の中で、これまでに身に付けた知識や技能をもとに瞬時に思考・判断し行動に移さねばならない。そのための事前の備えや事後の対応も重要である。他者と協働的にコミュニケーションを図りながら困難に備える。また、困難を乗り越え次代の社会を形成していくための資質・能力を育成していくことも重要である。

3 本校と1年生の学びの履歴

本校は昨年度から青森県防災教育推進事業指定校となり、2年計画（2年目）で防災教育に取り組んでいる。昨年度は定期的な避難訓練の他に、校内研修の一環として弘前大学教授を招いて地域の災害について教職員が学んだり、また同教授のオンラインによる生徒への防災授業を行った。また、本校教員による講話、非常食の体験試食、あおりおももりノートの活用による防災知識の習得学習も行った。さらに、体験的な学習も取り入れることで学習効果が高まると考え、防災訓練として、消防署員や上長自主防災組織の方々を講師に招き、起震車や濃煙体験、段ボールベットの組立て、AED操作の体験等をワークショップ形式で行った。

以上のように、昨年度は、「地域を知る」とともに、「いざというとき、中学生の自分が地域社会のために何ができるか」というテーマのもと、「自助から共助へ」と発展させることを目標に総合的な学習の時間の一環として防災教育に取り組んできた。

しかし、本授業では1年生を対象としている。1年生の小学校までの防災教育は春と秋の定期的な避

難訓練の実施とその際に八戸市教育委員会作成「未来につながる防災ノート」への感想を記入する程度のものであったため、防災に関する知識や「自助、共助、公助」への考え方はやや不足している。よって、中学校では、総合的な学習の時間と各教科との横断的な学習により、計画的に防災教育を行い、防災に関する知識の教授、「自助、共助、公助」についての考え方を学ぶこととした。

4 校内研究との関わり

本校研究主題「自分を律し、課題に向き合う生徒の育成」～探究的な学習活動を通して～を受けて、本校の総合的な学習の時間部会では次のような研究主題、研究仮説をもとに研究を推進している。

研究主題 教科・領域を横断した基礎力・思考力・実践力の育成を目指した総合的な学習の時間
 研究仮説 探究的な見方・考え方をもち、自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことで、自分の将来を見つめ、地域や社会の一員であることの意義を考え、積極的に社会に参画しようとする態度を培うことができるであろう。

本校研究主題に関連して、本単元においては「未来につながる防災ノート」や「あおりおまもりノート」を活用した学習で身に付けた知識を生かしながら、水害に関する関心を深める。授業の導入部分での「教師の仕掛けの工夫」や展開時では「どのように学ぶのか」、まとめでは「何が身に付いたか」を意識した授業構想のもと「個人での言語活動」及び「集団での言語活動」、さらに体験学習の場面を設定し、主体的に学習に取り組みせ、思考の深化を図ることで「自助、共助、公助」の精神を学び、将来的に社会参画への意識を高めることができると考える。

5 単元の目標

- (1) 地域社会の防災について考えることで、地域防災の一員としての心構えや自分の役割について考えることができる。
- (2) 自然の威力（河川災害）の体験をすることを通して、様々な課題に気づき、よりよい対応方法を考えることができる。
- (3) 避難所運営を通して、様々な課題に気づき、よりよい対応方法を考えることができる。
- (4) 自助、共助の視点をもち、いつでも適切な判断、対応をしようとする態度で臨むことができる。

6 単元の評価基準

	A 知識及び技能	B 思考力・判断力・表現力等	C 学びに向かう力・人間性等
評価基準	①災害が発生した際に、家庭・地域社会の一員として行動すべきことを理解することができる。 ②集めた情報を正確に読み取ることができる。	①自然災害（河川水害）について体験することで、自助・共助について考えることができる。 ②避難所設営・運営時の適切な行動として自ら実践したいことを考えることができる。 ③災害を想定し、その時どのように行動すべきかを考え、説明することができる。 ④災害図表訓練で考えた内容について、発表・表現することができる。 ⑤集めた資料をもとに、分かりやすい新聞等を作成し相手に伝えることができる。	①防災に対する重要性や必要なことに気づき、進んで備えようとしている。 ②自然災害について関心を持ち、災害対策について意欲的に考え、調べることができる。 ③発表資料作りを積極的に行い、他者と協力し作成することができる。 ④他者との意見交換の中で自分自身の考えを相手に伝えることができる。

7 指導と評価の計画

題材名	時	探究のプロセス	おもな学習活動	評価規準			評価方法
				知	思	態	
青森県、三条地区で起こりうる災害を知ろう	1 時間	情報の収集	・三条地区の地理、浅水川水害の歴史			C②	ワークシート
地域の川を知ろう	1 時間	情報の収集	・浅水川周辺の散策			C②	ワークシート
災害の種類について学ぼう	2 時間	情報の収集	あおもりおまもりノート活用 ・地震・津波・大雪 ・暴風雪について			C②	ワークシート
八戸市の災害について学ぼう	1 時間	情報の収集	・未来につながる防災ノート活用			C②	ワークシート
災害から身を守ろう	1 時間 [本時]	整理・分析	・水害について体験を通して考えよう		B① B③	C④	ワークシート レポート 発表、観察
地域の一員として何ができるか考えよう	3 時間	情報の収集 まとめ・表現	・避難所設置、運営について考えよう	A①	B③	C①	レポート 発表、観察
総合防災訓練「もしも学校が避難所になったら」	4 時間 連続	課題の設定 まとめ・表現	・地域の人たちと避難所設置や運営について訓練する ・想定される状況を考えよう		B② B③ B④	C② C③ C④	観察 ワークシート
防災学習についてまとめよう	1 時間	整理・分析 まとめ・表現	・体験し、学んだことをレポートのまとめたり、発表しよう。		B② B③ B④	C② C③ C④	観察 ワークシート レポート

8 本時の指導

(1) 題材名「災害から身を守ろう」 本時：「水害について体験を通して考えよう」

(2) 本時の位置づけ

防災教育の要である「自らの命は自ら守る」を徹底するためには、様々な災害に関する知識と適切な対応をしようとする強い気持ちが必要である。そのためには、地域で発災する可能性がある災害に関する訓練（体験学習）を行うことが必要である。浅水川を地域の川としている三条中学校は河川氾濫時の避難指定校になっており、学区は水害の危険性が常に伴っている地域である。そのために、本時は水害について着衣水泳の体験学習を通して自らの命を守る方法を感じ取らせ、災害時の自分の対応能力を高める学習を実践する。

また、着衣したままでの水泳には危険が伴うことを認識させ、バディのペアで安全に十分注意しながら活動するように促していきたい。

(3) 授業仮説

①導入から課題設定までにおける教師の働きかけの工夫

事前アンケートの結果と河川氾濫の映像を見せることで、災害に対する生徒自身の意識と、実際に起こり得る災害との差を感じさせ、自分の考えに疑問を抱かせる。

②探究的な学習活動の工夫【校内研究との関わりから】

水中での活動の中で、水流の中で身動きの難しさや服装、履き物等、様々な様態での行動の困難さを体験させることで、水害の怖さや自分の命を守るための方法を探究することができる。

(4) 本時のねらい

①防災、危機管理に関心を持ち、地域社会の一員として自分の役割について考えることができる。

(学びに向かう力・人間性)

②自然の威力に気付き、しかしいたずらに恐れず、適切な対応を考えることができる。

(思考力・判断力・表現力)

③常に自分の命は自分で守るという災害時の鉄則を意欲的に考えることができる。

(学びに向かう力・人間性)

(5) 予想されるつまずきと手立て

①導入部分で自然災害を身近なこととして捉えることができない生徒がいると思われるので、なるべく身近な資料（映像等）を利用して自分にも起こり得ることだという意識をもたせる手立てを講じる。（手立て①）

②水流体験や着衣水泳がレクリエーションの一環にならないように、災害場面を想定させながら、「なぜそうなるのか、その時どうしなければならないのか」常に考えさせる手立てを講じる。（手立て②）

(6) 評価規準

①他者との意見交換の中で自分自身の考えを相手に伝えている。（態：評価①）

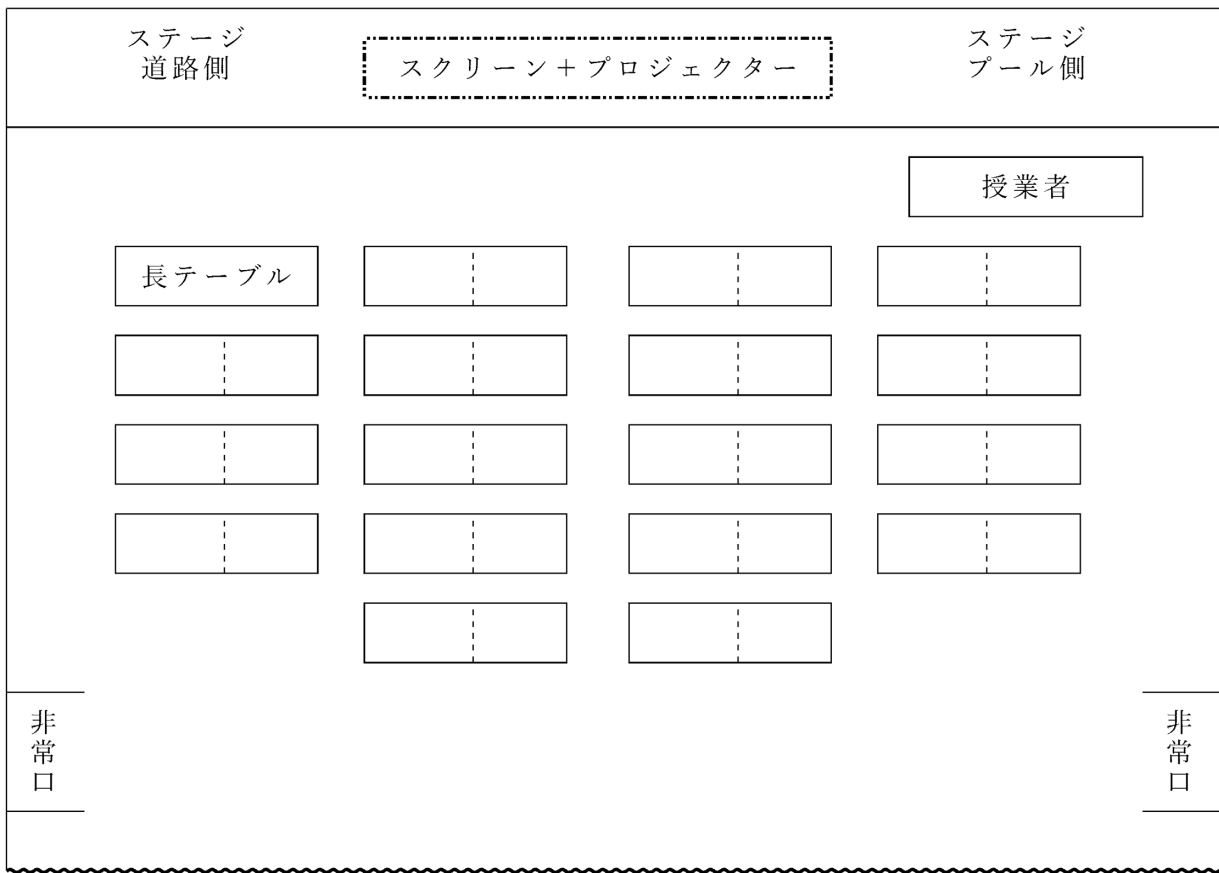
②水流の中で自分の身を守るためにどのような行動を取るべきかを考えている。（思・判・表：評価②③）

(7) 展開案 (6 / 14)

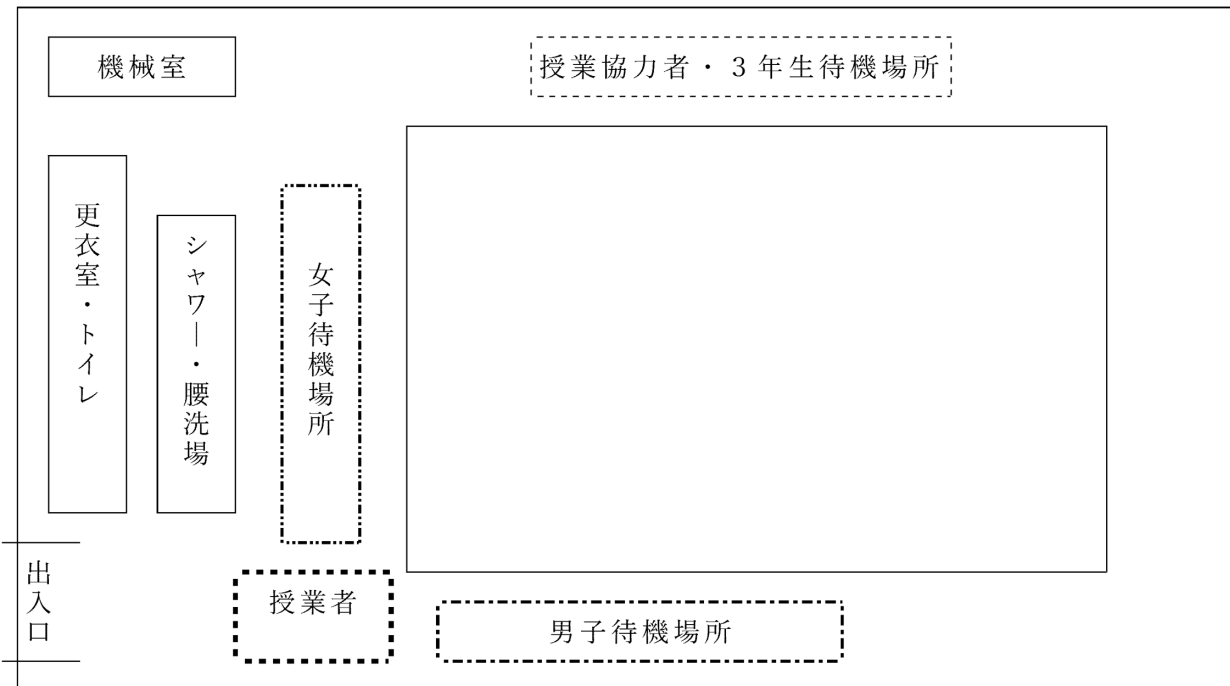
	学習内容と学習活動	指導者の働きかけ	評価
導入 (10)	<p>0 学習への雰囲気作り 浅水川の映像を見せる。</p> <p>1 河川氾濫は身近に起こり得るものだと考えさせる。</p> <p>2 三条中学校学区と浅水川の関係を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雰囲気づくりを心がける。 ・ 洪水に関する報道映像を見せる。 ・ 校門脇の避難所掲示板を見せる。 <p>【教師の働きかけの工夫】 何を学ぶのか</p>	
展開 (55)	<p>3 学習課題を共有</p>		
	水害について体験を通して考えよう		
	<p>4 水害に対する意識を確認する。</p> <p>5 本時の学習の確認をする。</p> <p>会場移動 (体育館→プール)</p> <p>6 点呼、健康観察、諸注意をする。</p> <p>7 ストレッチをする。</p> <p>8 流れの強さを体感する。</p> <p>9 流れに飲み込まれたときの対応を考える。</p> <p>10 水難に遭遇したときの知識を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害が起きたら、巻き込まれたらどう対応するか意識させる。 ・ 授業の流れと事故防止のための注意をしっかりと聞かせる。 ・ 体育館からプールへ移動させる。 ・ バディの確認、バディ同士の健康チェックを確実にする。 ・ 身体と心の両方をリラックスさせる。 ・ 流れに逆らって歩いて (泳いで) みる。〔バディ交互に体験〕 ・ スムーズに移動するにはどうしたらよいか? 〔バディ話し合い〕 ・ 1分間浮いていられるか? ・ 身を助けてくれる物とは何か? ・ 大声で助けを求めた方がよいのか? ・ 服や靴は脱ぐようにした方がよいのか? ・ 溺れている人、流されている人を発見したらどうしたらよいか? <p>【探究的な学習活動の工夫】 どのように学ぶのか</p>	<p>評価①：C④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者との意見交換の中で自分自身の考えを相手に伝えている。 <p>評価②：B③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害を想定し、その時どのように行動すべきかを考え、分かりやすく説明している。
まとめ (5)	<p>11 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害にあったとしても、落ち着いて行動することを確認する。 <p>【探究的な学習活動の工夫】 何が身に付いたか</p>	<p>評価③：B①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害 (河川災害) について体験することで、自助・共助について考えている。

(8) 会場図

〔体育館〕



〔プール〕



外部専門家の活用について

教職員研修

日時 令和3年5月19日(水) 15:00～
ねらい 八戸市、特に三条中学校区における自然災害の特徴を理解するとともに、防災教育の重要性や内容について研修を深める。
講演 「青森県における自然災害と防災教育」
弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏



生徒対象講演会

日時 令和3年9月2日(木) 13:10～
ねらい 三条中学校区における自然災害の特徴を理解するとともに、防災の重要性や内容について理解を深める。
講演 「三条中学校区の自然災害の特徴と防災教育」(オンライン)
弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏



氾濫は2種類
外水氾濫と内水氾濫

外水氾濫
本流が越流したり、破堤して氾濫すること

内水氾濫...
本流にそそぐ河川(支流)が本流の河川に入り込むことができなったり、排水ができないことから氾濫すること

河川からのはん濫(外水はん濫)

河川に排水できなかつた水による浸水(内水はん濫)

<http://www.city.kamaoka.lyo.go.jp/bousai/ansen/bosa/hazard-map/images/9-2-1.gif>

ハザードマップ

広義の定義:
「災害予測地図」または「防災地図」
・おこりえる災害を予め知らせる
・被害を防ぐために何をすべきかを伝える
機能を有する地図のこと(鈴木, 2014)

狭義の定義: 分野によって異なる
・教本では
災害が発生した場合に、災害現象により影響がおよぶと想定される区域および避難に関する情報を地図にまとめたもの



年度の異なる航空写真も活用可能

地域と連携した防災訓練について

避難所設営・運営訓練

- 1 目的 (1) 防災訓練を通して、洪水、土砂災害及び地震発生時の応急対策等、防災に関する知識を深め、防災意識の高揚を図る。
(2) 防災訓練での体験から、災害に対する対応や救護についての実践的な行動力を身に付ける。
- 2 日時 令和4年10月14日(金) 8:50～16:00
- 3 実施場所 三条中学校(校舎内、校庭、体育館、プール)
- 4 参加団体等 (1) 三条中学校生徒 276名
(2) 上長地区自主防災会
(3) 三条小学校児童(6年生 50名)
- 5 協力団体 (1) 八戸消防署尻内分遣所
(2) 八戸市防災危機管理課
(3) 八戸市消防団上長分団
(4) 八戸圏域水道企業団
- 6 訓練・体験内容
【午前の部】
(1) シェイクアウト訓練(ダッシュ119;右写真)
(2) 避難所設営訓練
(3) 避難者受け入れ対応訓練
【午後の部】
(1) 浸水時の歩行体験(場所:プール)
(2) 水消火器体験(場所:校庭)
(3) 濃煙体験(場所:家庭科室)
(4) 心肺蘇生法体験(場所:きぼうのひかりホール)
(5) 日用品応急処置、応急担架、搬送法体験(場所:体育館)
(6) 身近なものを使った応急手当(場所:体育館)
- 7 体験方法
【午前の部:避難所設営、対応訓練】
(1) 指令班(体育館本部)
・避難所設置運営本部 ・各部署への指令



(2) 情報班 (体育館本部より移動)

- ・ 校内状況、避難住民、各教室の状況把握と連絡
- ・ 掲示板設置



(3) 避難者管理班 (生徒玄関)

- ・ 避難者受付
- ・ 避難者教室の指示、案内



(4) 施設管理班 (体育館で指示を受けて各作業場所へ移動)

- ・ 避難者用会場設営
- ・ 簡易トイレ設置
- ・ 土のう設置
- ・ 受付用テント設営



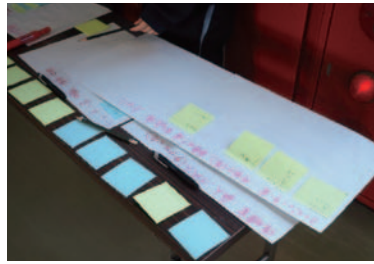
(5) 食料物資班 (家庭科室)

- ・ 食材確保、炊き出し準備作業
- ・ 給水準備、飲料水確保作業



(6) 救護・衛生班（保健室）

- ・けが人、病人、要介護者等の状況把握と対応
- ・消毒、体温計測等の準備



【午後の部】

- (1) 各学級6つの班を構成する。
- (2) その6つの班を基本に1～3年生縦割りの6つの班を構成する。
- (3) 6つの縦割り班で各防災体験をローテーションして回る。

8 体験時間等

- (1) 開会式 8:50～9:00

- ① 防災教育担当から
- ② 尻内分遣所長挨拶
- ③ 上長地区自主防災会会長挨拶
- ④ 校長挨拶

- (2) 訓練（体験）時間と割当

【午前の部】

- 9:00－9:30 シェイクアウト訓練（体育館、全校一斉）
- 9:30－9:40 移動
- 9:40－9:50 (1学年) 避難者役を担当、水道企業団から給水方法の指導
(2・3学年) 避難所設営・運営を担当
- 9:50－ 避難所設置命令を発令、作業開始
- 10:20－ 避難者入場、対応訓練開始
 - ・避難者役（1年生）が給水車から給水を受けて避難所受付へ入る。



- － 11:20 対応訓練終了
- 11:20－ 11:40 後始末



【午後の部】

		(1) 流水	(2) 水消火	(3) 濃煙	(4) 心肺蘇生	(5) 搬送法	(6) 応急手当
①体験時間 移動	13:20-13:35 13:35-13:40	1班	2班	3班	4班	5班	6班
②体験時間 移動	13:40-13:55 13:55-14:00	2班	1班	4班	3班	6班	5班
③体験時間 移動	14:00-14:15 14:15-14:20	5班	6班	1班	2班	3班	4班
④体験時間 移動	14:20-14:35 14:35-14:40	6班	5班	2班	1班	4班	3班
⑤体験時間 移動	14:40-14:55 14:55-15:00	3班	4班	5班	6班	1班	2班
⑥体験時間 移動	15:00-15:15	4班	3班	6班	5班	2班	1班

◇流水体験



◇水消火器体験



◇濃煙体験



◇心肺蘇生



◇搬送法



◇応急手当



(3) 閉会式 15:30～16:00

- ① 講評 (青森中央学院大学 准教授 中村智行 氏)
- ② 生徒代表挨拶
- ③ 校長挨拶
- ④ 防災担当者から諸連絡



地域と連携した防災訓練終了後の教員対象アンケート

Q 訓練を行って気づいたこと、問題点、改善点について

- ・避難所開設の机上シミュレーションでは、図面上で開設の計画を立てるだけなので、実際にやってみないと分からないことがたくさん出てきた。
- ・地域の方にもっと入っていただき、年に1度は必要な訓練である。
- ・断水時、トイレでのバケツからの水流しは高齢者やけが人には難しいと思った。バケツが結構重かった。
- ・体育館にも受付を設置（玄関受付との人数合わせ）
- ・係生徒、教員のポケットにメモ用紙とペン、ライトの携帯があるとよい。
- ・状況把握用の黒板（ホワイトボード）が足りない。
- ・トランシーバーがつながりにくい。（使用練習が必要）
- ・1つの係に2人ペア。
- ・連絡が手際よく、確実にできるように、使用する言葉を決めておく。災害時の使用用語集作成。
- ・土嚢づくりや給水体験など実践的な訓練ができた。
- ・「ダッシュ119」（消防署職員による消防広報・啓発活動チーム）の登場がとても良かった。
- ・訓練の全体像が見えていないと、各部での活動の充実を高めることができないと思った。
- ・濃煙体験は家庭科室に暗幕を引いてやると更に前が見えなくなり、火事の怖さが伝わると思う。

Q 訓練を行って自分にとって良かったこと、ためになったこと

- ・どこに何が保管されて、どのように使用できるのか等、確認することができた。
- ・避難者に関する情報の共有が難しい。
- ・避難者が必要とする情報提供の内容や方法が難しい。
- ・避難所設営はもちろん、避難所という環境そのものを初めて目の当たりにしたので、それがためになった。有事の際の報告、連絡、相談の大切さも改めてわかった。
- ・中学生も避難所設営・運営の力になることを知った。
- ・非常時の救護活動について考える良い機会になった。避難所になった際、すぐに準備ができるよう保健室の防災セットを作ろうと思う。
- ・家庭科での学習内容を学年横断的にリアルな体験として実施することができ、生徒のアイデアの豊かさを感じた。こちらが指示するより「考えさせる」ことができてよかった。

Q 訓練中の生徒について

- ・全員一生懸命に取り組んでいた。事前学習がしっかりできていた。
- ・避難者役を演じることで避難者の気持ちを考えることができた。
- ・土嚢づくりで中学生の力に消防職員が驚いていた。
- ・実際に設営・運営したので真剣さが増していた。
- ・水を無駄にしない方法、ゴミを出さない方法を考えさせると自分たちで考えて動き始めた。ゴミの分別では表示を作ることもしていた。

Q 2年間の防災教育計画の中で思ったこと、感じたこと

- ・避難所開設の指定を受けたので、この機会に備品を整理し、災害に備える必要があると思った。
- ・大人も中学生も同じように悩んで避難所運営の仕方を考えるのは貴重だと思った。誰かが正解を知っているというわけでもない課題で、難しいけれど、みんなで考えていかなければいけないことで、それぞれの経験、感じ方を生かしていくことが大事なのだと思う。
- ・危険の見極め方、サバイバル技術が大切である。
- ・なかなか体験することがなく、初めてのことが多く有難かった。このような授業を毎年継続して少しずつ身に付けていけたらよいと思う。
- ・設営シミュレーションを行ってから避難所設営・運営訓練をするとより充実したものになると思った。
- ・1年目に机上で行っていた計画を実際に考えて動けたことは、とても意味のあることだと感じた。

地域と連携した防災訓練終了後の生徒対象アンケート

Q どのようなことを意識しながらその仕事（役割）務めましたか？

【2学年】

- ・（男子・施設管理班）土のうを積むときに傾かないこと、隙間がないようにすることを意識した。本当に川が氾濫した時のことや、みんなの命は自分たちが守るということを一番に考えて行動し、仲間と協力しながら土のうを作ることができた。
- ・（女子・食料管理班）大勢の人が食べるので、清潔さを保ちつつも健康で安全な食料を作りました。水があまりない中、どうやって大勢の人たちに全員に食べ物を届けるかを考えながら務めました。
- ・（男子・施設管理班）どこにストーブを置いたら全体が温かくなりやすいのか、安全に運ぶにはどうしたらよいか、発電機をどこに置いたら効率よく電力を回せるかを考えて行動しました。
- ・（女子・情報班）周りの人たちがどのような情報を必要としているか、どのような情報があった方がいいかを考えながら行動をした。
- ・（女子・施設管理班）見やすい字を意識しながら貼紙を書いて張ったり、トイレを数分おきにまわって見に行ったり、流す水用にプールからバケツで水を運んだりしました。

【3学年】

- ・（女子・指令班）本部からの指示を的確に伝えるように冷静であることを意識しました。体育館にはたくさんの方がいてそれぞれで話しているので、自分が話していることが相手にしっかり伝わるように大きな声で話すことを意識しました。
- ・（女子・情報班）常に周りの状況を理解し、正しい情報を伝えられるようにしました。煙草を吸いたい人やイスラム教の人などの対応に焦ってしまうような場面もありました。他の情報班の仲間と協力することを心掛けました。
- ・（女子・避難者管理班）避難者がスムーズに受付を済ませることができるよう、受付を3カ所設置し、病気や事情を聞き出せるような貼紙をするなどの工夫をした。私は班長だったため、常に周りを見て、避難者を受付へ案内したり、班員への声掛けなどを積極的にすることを意識しました。

Q その仕事（役割）から学んだこと、気付いたことは何ですか？

【1学年】

- ・（男子避難者役・4人家族）大人も心配で心に余裕がなくなっていると思うので、そういう時は避難所運営の私たちがサポートしてあげなければいけないと思った。
- ・（女子避難者役・4人家族）4人家族は子どもが2人いるので、目を離さないようにするのが大事だということが分かりました。あと、子どもを安心させるのも大切だと分かりました。
- ・（男子避難者役・外国人）外国人を相手するのは、対応する人も大変だけれども、外国人も言葉が通じなくてとても心細いのではないかと思います。
- ・（女子避難者役・足が不自由な高齢者）足が不自由な方が来た場合には、靴を履かせてもらうということ、他の人より避難場所に行くのに時間がかかるということ、水などを運ぶのも難しいことなど、他の人の協力が必要だということが分かりました。
- ・（女子避難者役・単身者）単身女性は女性外国人や妊婦の人と一緒に行動した方が役に立つと思った。
- ・（女子避難者役・高齢者）段ボールベットはシーツや布団がなかったので、夜は寒い時どうしているんだろう。一人一人の思っていることが違うのなら、もっと大変だと学びました。

【2学年】

- ・（男子・衛生管理班）学校に避難してきた人たちを安心させることはすごく大変だと分かりました。
- ・（女子・食料管理班）やはり水が大事だと思った。水、電気、普段から使っているものは災害の時とても重要だということを学んだ。出来るだけ少ない量で洗わなければいけなかった。
- ・（女子・情報班）自分たちが情報を集めて、把握するだけだと思っていたのですが、それを他の班にも伝達しなければならぬので、その大変さに気付くことができました。ただ伝えるのではなく、状況を判断して仲間や避難者に声をかけるなどの工夫が大切だということを学びました。

- ・(女子・施設管理班) 貼紙を書くときは、小さい子からお年寄りまで見ることを想定して急ぎながらも大きめにふりがなを書き、貼る位置も上になりすぎないように考えました。

【3学年】

- ・(男子・衛生管理班) 足や手、耳や目が不自由な人達に自分が頼られている実感がわいた。その人達を不安にさせないことも自分の役割だと思った。
- ・(男子・施設管理班) 土のうを140個も作って疲れたが、実際は1万個くらい必要と聞いて驚いた。
- ・(女子・避難者管理班) 非常時のときは相手も自分もパニックになって頭がまわりにくくなるため、遠回しな言い方をせずに、一言で誰にでもわかるような言葉を優先的に使うようにすることが分かりました。事前に他の班とも共通理解をしなくてはいけないことを学びました。
- ・(女子・指令班) 本部では常に様々な情報が飛び交っていて、情報が混ざってしまった時に仲間に確認しながら作業したので、常に集中しなければならなくてとても大変でした。実際は、今回の訓練よりもさらに大変なトラブルが増えると思うので、日々訓練した方が良いと思いました。
- ・(女子・避難者管理班) 私たちの誘導側からの目線で見ただけではなくて、実際に避難者と一緒に座ってみて、長時間床に座るのは厳しいことなどが分かりました。相手側の目線で見ると、たくさんの問題が出てくるものだと思った。
- ・(女子・情報班) 情報の大切さ、仲間との協力、臨機応変に対応することの3つを学びました。一つでも伝える内容を間違えると混乱がおきたり、勝手に行動して仲間を困らせたり、すぐに行動できないことがあっては、本当に災害がおきた時に自分だけでなく周辺の人にも混乱が広まってしまいます。いかに情報が大切か分かりました。

Q 要介護者搬送法・応急処置法から学んだことは何ですか？

- ・(1年女子) 身近なもので怪我の応急処置をしたり、簡単に作れて丈夫な担架で人を運ぶことができるのを初めて知った。自分ももしもの時には冷静に応急処置が出来るようになりたいと思った。
- ・(2年女子) 昨年の防災訓練でも行ったけれど、毎年行ってしっかり記憶に定着させることが大事だと思いました。
- ・(3年男子) 「これがあればそれができる」というのをしっかり覚えておけば、何か起こった時にも、すぐに対応できると思った。

Q 心肺蘇生法から学んだことは何ですか？

- ・(1年男子) けっこう力を入れて全体重をかけないといけないので、あまり長い時間できなかった。
- ・(1年女子) AEDはボタンを押すと音声流れるので、自分でもできそうだと思った。
- ・(2年男子) たくさん心臓マッサージをすると自分も疲れるが、命がかかっていると思うとあまり疲れる感じがなかった。

Q 消火器使用法から学んだことは何ですか？

- ・(1年女子) 消火器を使うタイミングは、小さな火事が起きた時に使うということを知った。そして、消火器を使う手順を知ることができた。
- ・(1年男子) 消火器を持ち上げる力も必要だけど、火に向かう勇気も必要と思った。
- ・(1年女子) 消火器の使い方は保育園の時に教えてもらっていたけど、手前から水をかけていくことや、広い範囲には使えないことは知らなかったなので、覚えられて良かったです。

Q 流水体験から学んだことは何ですか？

- ・(1年女子) 体験をする前は「深さ40cmだったら大丈夫だろう」と思っていたのですが、実際には流れが強くとてびっくりしました。ニュースなどで1mなどと言っていたら危ないと思っておかないといけないということが分かりました。
- ・(1年女子) 見た目と実際の水流の力は全く違うということが分かった。
- ・(1年女子) プールでも水流が強くて怖かったが、これが夜だったり、ロープがない一人の時だったりしたら、もっと怖いだろうと思った。
- ・(3年女子) 水温がとても低かったです。もし、その水温で洪水が起こったら低体温症になる可能性が高くなると危機感を感じました。

地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

協議会出席者

所 属	役 職	備 考
三条中学校	校長、教頭、防災教育担当	研究指定校
三条小学校	校長又は教頭	研究指定校の周辺校
西園小学校	校長又は教頭	//
八戸西高等学校	生徒指導主事	//
八戸市教育委員会学校指導課	主任指導主事	所管の教育委員会
八戸市防災危機管理課	主査	所管の防災担当部局
八戸消防署、尻内分遣所	副署長、所長など	所管の消防署
上長地区自主防災会	会長、副会長など	学区の自主防災組織
青森中央学院大学	准教授	外部有識者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長	外部専門家
青森県防災士会	青森支部長	外部専門家
三八教育事務所	指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

第1回検討協議会

日 時：令和4年5月23日（月）15：30～16：30

場 所：八戸市立三条中学校 会議室

- 内 容：(1) 今年度の防災教育について
- ・令和4年度防災教育年間計画について
 - ・上長地区自主防災会との合同防災訓練について
- (2) 出席者からの助言など
- (3) 情報交換



○上長地区自主防災会 提供資料

令和4年度「命を守る！防災教育推進事業」予定表
(三条中と上長地区自主防災会との合同防災訓練)

工程表(案)

4年1月 役員会(会長・副会長・事務局・市防災危機管理課) 1/18(火)10:00
↓
4年5月 三条中での防災会議①(会長・副会長・事務局)
↓
4年6月 総会(全会員) 機器の点検 金曜日午後(6/24予定?)
↓
4年7月 役員会(会長・副会長・事務局・各班長・副班長・理事)
↓
4年8月 運営会議(全会員) 各班にて詳細検討(参加者確認)
↓
4年9月 三条中での防災会議②(会長・副会長・事務局)
↓
4年9月 役員会(会長・副会長・事務局・市防災危機管理課) 最終確認
↓
4年10月 合同防災訓練開催

合同防災訓練要項(案)

想 定: 本来は馬淵川氾濫に伴う合同避難訓練であるが、今回は浅水川及び放水路が氾濫した水害を想定する
地域は、上長西地区対象(矢沢・三条目・張田・笹ノ沢・正法寺・大仏)
避難場所: 今回は三条中学校とする
参 加 者: 上長地区自主防災会員及び三条中学校教員・生徒、
市防災危機管理課、八戸消防署(尻内分遣所)、日赤青森県支部、
市教育委員会、三八教育事務所、県教育庁スポーツ健康課、
三条小、西園小
三条中1年生を地区住民に見立てる
2年生・3年生は各班へ合流する
主 担 当: 上長地区自主防災会

各班業務内容(案)

会 長: 総務班と本部待機(総司令)

副 会 長: 会長補佐
玉縣(総務・給食給水班)、田端(救出救護・避難誘導班)、松橋(情報班)

理 事: 体育館にて避難住民の名簿作成・管理(検温・マスク)

事 務 局: 庚寺(全体の活動状況確認・写真)

総 務 班: 本部待機、各班との連絡調整(会長・副会長は本部)
本部の設営(体育館内)
教諭者の教室の設営(段ボールベット)

情 報 班: 各現場へ赴き、情報を本部に連絡
現場は笹ノ沢、正法寺、大仏町内
川の状況、嵐の状況 → 各巨の携帯電話対応
(トランシーバー1台も使用?)
三条目、張田、矢沢町内
川の状況 → 各自の携帯電話対応

救出救護班: 各現場での負傷者等の確認連絡、救出・救護
現場は三条目(三条保育園付近)、張田(三条クリニック付近)、矢沢町内
(矢沢生活館付近)とし、リヤカー救出は三条目町内では他は介助救出
→ 学校到着後、担架で救護室へ

避難誘導班: 各現場へ赴き三条中への避難誘導
現場は三条目(三条保育園付近)、張田(三条クリニック付近)、矢沢町内
(矢沢生活館付近)とし、三条中1年生を住民に見立てて実施
学校到着後、体育館に誘導し、各町内ごとに待機

給食給水班: 体育館内で炊き出し(おにぎり: 自主防災会他)?
→ 水を入れて、湯せん出来る米を使用(炊き出しの釜不要)
(ガスコンロ?)
(注) コロナの関係で炊き出し不可の時は、公民館の自家発電機による発電の訓練を行ったかどうか。

10月14日(金) 合同避難訓練当日タイムスケジュール(案)

9:00 訓練開始(全員体育館又は校庭集合)
自主防災会長挨拶
消防署・学校挨拶

9:10 訓練開始

9:15 市防災危機管理課より浅水川及び放水路が2時間位で氾濫する一報が本部へ入る

9:20 本部(総務班) → 情報班へ指示(笹ノ沢・正法寺・大仏町内へ)
(三条目・張田・矢沢町内へ)
1年生は、速やかに三条目・張田・矢沢町内に移動し待機

9:40 各現場から本部へ連絡

9:50 本部(総務班) → 救出救護班・避難誘導班へ指示(三条目・張田・矢沢町内へ) 1町内はリヤカー使用

10:10 救出救護班・避難誘導班各現場到着
救出救護班は怪我人の確認、避難誘導班は避難者数の確認
→ 本部へ報告

10:20 救出救護・避難開始

10:40 救出救護班・避難誘導班中学校へ到着
速やかに本部へ報告
救護者は指定救護教室へ
避難者は体育館へ集合し待機
避難者(1年生の生徒)は、救護班・給食班へ合流して手伝い

10:50 給食給水炊き出し開始(発電機のかかけ訓練)

11:20 炊き出し完了(発電機のかかけ訓練終了)
炊き出した米は生徒以外で持ち帰り

11:30 訓練終了(全員体育館)
自主防災会長挨拶(講評)
消防署・学校挨拶(講評)

11:40 後片付け(参加者全員)

12:00 解 散

外部支援参加団体

市防災危機管理課: 本部待機(アドバイス)
八戸消防署(尻内分遣所): 本部・各現場待機(アドバイス)
日赤青森県支部: 本部待機
市教育委員会: 本部待機
三八教育事務所: 本部待機
県教育庁スポーツ健康課: 本部待機
三条中学校: 教職員は本部・各班へ合流
生徒の2, 3年生は各班合流、1年生は地域避難者の想定
三条小・西園小校長(教職員): 本部待機

中学校にお願いすること

本部設営場所・避難者待機場所 → 体育館
救護室場所 → 1教室

問 題 点

情報班の個人携帯電話の使用
雨天の際の対応
自主防の参加者
学校施設内の使用
段ボールベットの使用
炊き出しの際の衛生管理・届出?
時間設定(タイムスケジュール)
生徒の時間の振り分け方
起震車体験
生徒の体験コーナー?(新1年生は初体験)

第2回検討協議会

日 時：令和4年9月13日（火）14：30～16：30

場 所：八戸市立三条中学校 会議室

内 容：10月14日（金）実施 地域と連携した防災訓練について

第3回検討協議会

日 時：令和4年11月29日（月）14：30～15：30

場 所：八戸市立三条中学校 会議室

内 容：(1) 今年度の防災教育の取組状況

○防災教育担当から

①これまでの防災教育の取組について

- ・生徒への防災に関する指導は、県の「あおもりおまもり手帳」や八戸市の「防災ノート」を活用して行っている。総合的な学習の時間（以下、「総学」）で災害の歴史を学習した。他には、洪水災害の動画を視聴させ、地域の災害が発生しやすい場所の確認を行い災害への意識付けを行った。
- ・1年生は、登山の際にある程度の重さのある荷物を背負って歩く経験や野外炊飯を実施。
- ・プールでの流水体験（長靴・着衣）
- ・職員研修として、避難所運営の研修を実施（どこの教室がどのように使えるか検討）
- ・生徒が興味をもって学べるよう防災教育を進めてきた。

②防災訓練について

- ・訓練は形式的なものと応用的なものを実施
形式的なもの：避難経路の確認、起震車体験 等
※ R3年度は総学防災教育を実施（AED、CPR、搬送法、濃煙体験、消火器体験）
- ・R4年度はR3年度の内容＋プールでの流水体験を実施
⇒防災士の方からも助言をいただき、連合町内会の方にもたいへん御尽力いただいた。水道局の方々の御協力で、給水体験や給水バックの体験も行うことができた。
- ・昨年より一層実践的なものになった。

(2) 地域と連携した防災訓練の振り返り

○八戸消防署から

- ・防災訓練に向けて何度も話し合いを行ったことで、当日スムーズに運営することができた。プールでの流水体験は、消防としても初めての経験であった。実施後、問い合わせをいただいている。消防としても、今回の訓練のノウハウをしっかりと引継ぎ、波及させたいと考えている。マスコミに取り上げてもらったことで、地域への啓発にもつながったと感じている。
- ・（流水訓練にしても）学校でどんな訓練がやりたいのか、どんどん相談してほしい。早めに相談してもらうことで、こちらも対応できるよう工夫していける。
- ・生徒達には繰り返し学ぶことで、防災への知識や技術を身に付けてほしいと思う。

○周辺校（小学校）から

- ・流水訓練について、子どもたちは実感を伴いながら困難さを体験することで理解につながった。実際の経験から意識を変えることができた。

○八戸市防災危機管理課から

- ・校務等で忙しい中、このような訓練が実施できたのは、先生方の努力の賜物だと思う。
- ・訓練時は、生徒が楽しそうに訓練に取り組んでいたのが印象的だった。
- ・訓練の際、「困ったら自主防の人へ相談」ということで実施していたことから、生徒も自主

防の人に相談しながら行っていた。地域の方と手を取り合って活動している様子が見られて良かった。

- ・ 1日日程という長い訓練であったが、たいへん充実していた。生徒の心にも残ったと思う。

○上長地区自主防災会から

- ・ 避難所運営は、自分たちにとっても勉強になった。本部と各々の係の連携について確認することができた。本部からの指示も的確で動きやすかった。また、生徒の動きが確認できたことから、今後の避難所運営に役立てていきたい。学校側から提示された避難所の事前の割り振りはとてもよかった。今後も引き継いでいってほしい。
- ・ 様々な訓練は、生徒にとって貴重な体験であり、勉強になったものと思う。今後も、ぜひ継続していってほしい。

○事務局から

- ・ 学校の教職員は異動があることから、防災訓練のノウハウを引き継いでいくためには、今後は徐々に地域が主体となった取組として、学校と連携する形で続けていくことが理想である。

○八戸市教育委員会から

- ・ 生徒にとっては貴重な経験だった。今後も、継続していくことが大事だと考える。
- ・ 学校はコミュニティの中心として、地域と連携していってほしい。子どもたちだけでなく「命を守る」ためには学校と地域が隔てなく接していくことが重要。市教委としても防災ノートの改訂を行うなど、防災教育を推進していきたい。

(3) 2年間の指定で感じたこと

○防災教育担当から

- ・ 災害等の有事の際は、地域の力として中学生の方が力を発揮できると思う。
- ・ 今回の事業では、子ども達が将来、地域の力となって活躍してくればとの思いで取り組んできた。
- ・ 避難所等での物資の準備や整備はどうするのか。
- ・ 三条中学区は駅に近いこともあり、観光客にはどう対応するのか。
- ・ どの小・中学校も地域のコミュニティの中心である。地域の人たちの（防災に係る）勉強会も必要だと感じている。
- ・ 学校に防災のスペシャリストが必要。教員の防災スキルの向上が必要。

命を守る！防災教育推進事業
防災教育実践事例集

発行月 令和6年3月

発行 青森県教育委員会

編集 青森県教育庁スポーツ健康課

TEL 017-734-9908

印刷 ワタナベサービス株式会社

TEL 017-777-1388